

環境経営レポート

2023年度版

〔 対象期間 : 2023年 9月 ～ 2024年 8月 〕

発行日 : 2024年 9月 13日

改定日 : 2024年 11月 26日



千葉伊東電機株式会社

1 環境経営レポートの発行に当たって

2020年からのコロナウイルス感染拡大により、私たちを取りまく環境は大きく変わりました。この2年間で今までの常識は崩れ、「ニューノーマル」という言葉まで生まれました。エネルギー使用量の削減、リサイクルの促進と言った事だけではなく、経済を推し進めながらも生活、安全を守る行動が今まで以上に必要となり、技術の発展による利便性と富の追求が豊かさであり社会発展であると考えられていた時代は過去のものとなったようです。今後は自然環境、社会環境を維持、向上させて、平等で安心できる、幸福感を感じられる社会を構築していく必要があります。新しい時代でもエネルギーの根幹は「電気」であることは変わりません。弊社はこの「電気」に関する商材を扱う商社です。この強みを生かして持続可能な開発目標に進む社会に貢献出来るように今後も努力していく所存です。

代表取締役
伊東 克己

目 次

1. 環境経営レポート発行に当たって	2
2. 事業活動によるSDGsへの貢献	3
3. 組織の概要	4
4. 環境経営方針	5
5. 実施体制	6
6. 環境目標及びその実績	7
7. 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容	8
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	9
9. 代表者による全体評価と見直しの結果	9

2 事業活動によるSDGsへの貢献

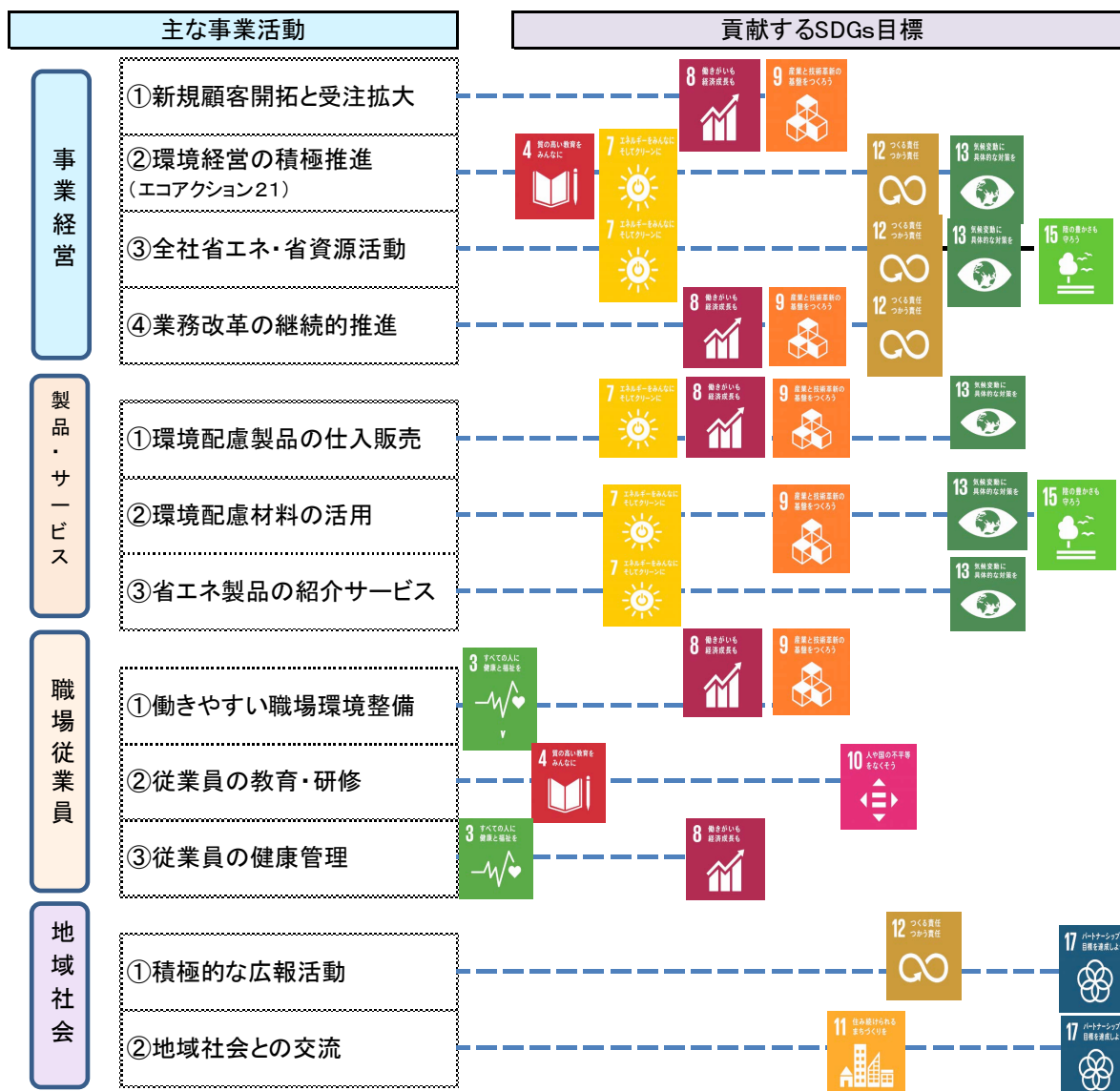
当社は、事業活動を通じてSDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献しています。

SDGsは、2015年国連サミットにおいて「誰一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会」の実現に向けて採択された世界共通の目標です。

■ SDGs目標(17項目)

SDGs 17の 目標	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
	貧困をなくそう	飢餓をゼロに	すべての人に健康と福祉を	質の高い教育をみんなに	ジェンダー平等を実現しよう	安全な水とトイレを世界中に	クリーンなエネルギーをみんなに	働きがいも経済成長も	産業と技術革新の基盤をつくろう	人や国の不平等をなくそう	住み続けられるまちづくりを	つくる責任・つかう責任	気候変動に具体的な対策を	海の豊かさを守ろう	陸の豊かさを守ろう	平和と公正をすべての人に	パートナーシップで目標を達成しよう

■ 当事業活動とSDGsの関連



3 組織の概要

(1) 社名、代表者名及び本社所在地

社 名 千葉伊東電機株式会社

代 表 者 伊東 克己

本社所在地 〒 273-0002 千葉県船橋市東船橋 5-26-1

(2) 会社設立及び資本金

設立年月日 1972年10月

資本金 1000万円

(3) 事業の概要

電設資材総合卸売業

(4) 事業所及び認証・登録範囲

事業所名	所在地	業務内容	認証登録対象該否
本社	千葉県船橋市東船橋 5-26-1	営業・経理・業務	○

(5) 環境管理関係の責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者 氏名 泉 正紀

環境業務担当者 氏名 緑川 誠

連 絡 先 住 所 〒 273-0002 千葉県船橋市東船橋 5-26-1

電 話 047 (423) 2101 FAX: 047 (425) 0815

電子メール izumi.m@chiba-ito.co.jp

(6) 事業の規模

項 目	単位	2020年	2021年	2022年	2023年
売 上 高	百万円	519	525	570	580
従業員数	人	9	9	9	7
床面積	m ²	396.7	396.7	396.7	396.7

(7) 事業のための許可取得状況

①許可の種類	②許可番号	③許可年月日	④許可有効年月日
—			

(8) 設備等の状況

	設備の種類	台数
車 輦	乗用車	1台
	ワゴン車	1台
	貨物車・軽貨物車	2台

環 境 経 営 方 針

[経 営 理 念]

私たちは国際社会の一員として、環境保全の立場に立ち、次世代に繋がるより美しい地球環境の実現に向け努力します。

[環 境 方 針]

当社は電設資材総合卸商社として、製品を速やかに必要とされる場所にお届けする事を求められています。顧客サービスの質を保ちながら、省エネルギー、環境負荷の低減に努めます。また、取扱商品の多くは電気エネルギーの削減に直接関わるものです。私達は各製造業者が作り上げる商品の優位性を見極め、人と環境に優しい技術を逸早く市場に供給する事も大きな使命と考えてます。全社員が環境に配慮した事業活動に取り組むことにより、環境負荷及び環境経営の継続的改善並びに環境関連法規の遵守等を誓約します。

[環境への取組の基本的方向]

1. 取り組みの重点分野

- (1) 資源、エネルギーの効率的な活用により二酸化炭素の削減に努めます。
- (2) 事業活動において消費する資源の有効活用を図り、廃棄物の削減を行います。
- (3) 節水に努め排水量の削減に努めます。
- (4) 事務用品のグリーン購入促進に努めます。
- (5) 自らが販売・提供する製品のサービス改善 環境活動の省エネルギー型や省資源型製品への提案販売に努めます。

以上の環境負荷低減に努めます。

2. 環境関連法規の遵守

事業活動に関連する全ての法令を遵守し、国や行政の環境対策に協力してまいります。

3. 組織改革及び定例ミーティング

各部門ごとに担当者を定め、毎年2回進捗状況の報告及び定例ミーティングを行うことで、社員の環境方針に対する意識の継続を高めます。

環境経営の継続的改善を誓約します。

この環境方針は、全従業員に周知すると共に、一般にも公開します。

制定：2010年 8月26日

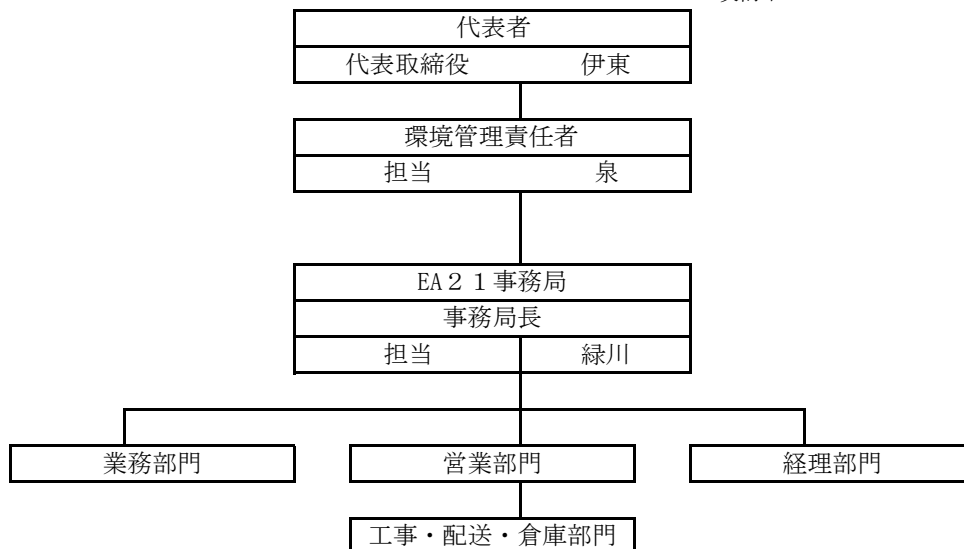
改訂：2020年 8月30日

千葉伊東電機株式会社

代表取締役 伊東克己

制定日 : 2018. 4. 1

改訂日 : 2023. 8. 1



役割、責任及び権限表

対象者	役割、責任・権限
代表者	・経営における課題とチャンスの明確化 ・環境経営に関する方針（環境経営方針）を定め、誓約する。 ・効果的で必要十分な実施体制を構築する。 ・各自の役割、責任及び権限を定め、全従業員へ周知する。 ・EA21を運用し、維持するための経営資源を用意する。 ・環境経営全体の取り組み状況及びその効果を評価し、以下の項目を含む総括的な見直しを実施し、必要な指示を行う。 ①環境経営方針②環境経営目標及び環境経営計画 ③実施体制
環境管理責任者 EA21事務局	・環境への負荷と取り組みの状況を把握及び評価する。 ・環境経営目標及び環境経営計画の策定、並びに達成状況実施状況を評価する ・問題がある場合の是正処置、予防処置を実施する。 ・教育・訓練の実施を確認する。 ・環境コミュニケーションの実施する。 - 内部・外部・環境経営レポート ・環境上の緊急事態への準備及び対応する。 ・緊急事態等の試行実施後及び発生後に、対応策の有効性を検証し、必要に応じて改訂する。 ・環境経営方針、環境経営目標を達成するために、必要に応じて手順書を作成し運用する。 ・文書類を作成・管理する。
従業員	・環境経営方針、環境経営目標及び環境経営計画の達成、並びに環境関連法規などの遵守に必要な取組を実施する。 ・環境経営方針、環境経営目標を達成するために、必要に応じて手順書を作成し運用する。

6 環境目標及びその実績

環境目標項目			基準年	年度目標			2023年度 の実績及び評価	
			2018年度実績	2023年度	2024年度	2025年度		
1 二酸化炭素排出量の削減	〔目標値設定率〕			基準値比	基準値比	基準値比	2023年度 実績値	目標 達成
				3 %削減	4 %削減	5 %削減		
	(1) 電気使用量の削減	電気	kwh	10,533	—	—	12,650	○
		排出係数	0.474 kg-CO2	4,993	—	—	5,996	
		売上高原単位CO2平均排出量	kg-CO2 /百万円	11.07	10.73	10.62	10.52	
	(2) 化石燃料使用量の削減	ガソリン	L	5,002	—	—	4,953.33	—
		排出係数	2.32 kg-CO2	11,605	—	—	11,492	
		売上高原単位CO2平均排出量	kg-CO2 /百万円	23.07	22.38	22.38	21.92	
	二酸化炭素排出量 計		kg-CO2	16,597	—	—	17,488	—
	売上高原単位二酸化炭素月平均排出量		kg-CO2 /百万円	35.00	33.11	33.00	32.44	○
2. 廃棄物排出量の削減	〔目標値設定率〕			基準値比	基準値比	基準値比	2023年度 実績値	
				5 %削減	6 %削減	7 %削減		
	コピー紙使用量	k g	276.11	—	—	—		○
		k g /百万円	0.55	0.52	0.52	0.51	0.26	
	一般廃棄物	kg	634	—	—	—		○
		k g /百万円	1.27	1.21	1.19	1.18	0.77	
3. 水使用量の削減	〔目標値設定率〕			基準値比	基準値比	基準値比	2023年度 実績値	目標 達成
				5 %削減	6 %削減	7 %削減		
	水使用量	m ³	18	17.10	16.92	16.74	26.0	×
4. 環境配慮製品の 使用促進	〔目標値設定率〕			基準値比	基準値比	基準値比	2023年度 実績値	目標 達成
				5 %増	6 %増	7 %増		
5. 環境配慮製品の 販促活動	〔目標値設定率〕		×△○○				2023年度 実績値	目標 達成
				営業社員の認知度の向上	定性的目標	---	○	

※化学物質は、使用又は販売していません。

7 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

〔評価基準〕 ○ : 良くできた △ : ある程度できた × : 出来なかった

環境目標項目		具体的取組内容	推進責任者	取組結果と評価 (○△×)	次年度の 取組内容
1 二酸化炭素排出量削減	電気使用量の削減	不在時の消灯 エアコンの適正温度設定 エアコンフィルターの清掃	泉	目標値の再設定に基づき、取り組みを行った。 目標値を達成し、 前年度の実績値も下回った。 評価 ○	現行取組みを継続
	化石燃料使用量の削減	配送の効率化 アイドリングストップ	戸倉	適切な配送ルートの見直しなどにより 目標値を達成し、前年度の数値も 下回った。 評価 ○	現行取組みを継続
2 廃棄物排出量の削減	資源の有効利用	コピー紙の使用量削減 裏紙などの活用	大門	前年度同様活動を継続でき 前年度の数値も下回った。 評価 ○	現行取組みを継続
	一般廃棄物の削減	空き箱の再活用	戸倉	適切な空き箱等の活用により 、廃棄物が減少し前年度の数値を 下回った。 評価 ○	現行取組みを継続
	産業廃棄物の削減		-----	産廃の排出なし 評価 ○	現行取組みを継続
3. 水使用量の削減		漏水の確認	緑川	酷暑により、散水を多く行ったことにより 水使用量が大幅に増加した。 目標未達であった。 評価 ×	現行取組みを継続
4. 環境配慮製品の使用促進		グリーン製品の仕入れを 心掛ける	遠藤	グリーン製品が増えたことにより、 よりグリーン製品の選択が可能になり、 結果、前年度より購入率が増加した。 評価 ○	現行取組みを継続
5. 環境配慮製品の販促活動		環境配慮製品への知識を 深め商品の販売を促進する	横山	環境配慮製品に対する知識を深め 、販売につなげることが出来た。 評価 ○	現行取組みを継続

8 次年度の環境経営目標・環境経営計画

・ 2024年度 環境経営目標・環境経営計画

No	環境経営目標			環境経営計画	
	項目		目標値	取組の内容	責任者
1	二酸化炭素排出量の削減	電力使用量削減	10.62 kg-CO2/ 百万円	①不在時の消灯 ②エアコンの適正温度 打ち水 ③エアコンフィルターの清掃 ④照明器具の適時消灯	泉
		ガソリン使用量削減	22.38 kg-CO2/ 百万円	①配送の効率化、同一方向・同一配送 ②エコドライブの推進 ③アイドリングストップの実行	戸倉
		合計	33.00 kg-CO2/ 百万円		
2	廃棄物排出量の削減	コピー用紙使用量の削減	0.52 kg/百万円	①裏紙の活用 ②	大門
		一般廃棄物の削減	1.19 kg/百万円	①梱包材の再利用 ②	戸倉
3	水使用量の削減		16.92 m ³ /年	①井戸水などの活用 ②漏水の確認	緑川
4	環境配慮製品製品の 使用促進		36.7 %	①グリーン製品の仕入を心掛ける	遠藤
5	環境配慮製品製品の 販売活動		—	①環境配慮製品の知識を深め、商品の販売を促進する	横山

9 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

(1) 関連法規等の遵守状況

当社事業及び製品に関する主な環境関連法規等は下記の通りであり、今年度遵守状況を確認した結果、環境関連法規への違反はありませんでした。

遵守状況確認日 令和 5 年 12 月 27 日

法律名	要求事項	当社が遵守すべき事項	遵守状況
廃棄物処理法	- 産業廃棄物の適正処理 - 産業廃棄物保管基準の遵守 - 収集運搬、処分業者との契約 - マニフェストの交付と回収保管 - マニフェスト交付状況定期報告	- 自主責任の処理 - 保管基準遵守 - 二者契約締結 - マニフェスト回収保管 - 年度交付状況報告	適正遵守
資源の有効な利用の促進に関する法律	3R原則の励行	3Rの教育と実践	適正遵守
各種リサイクル法の遵守	- 家電リサイクル法 - 容器包装リサイクル法 - 自動車リサイクル法	左記使用済資源のリサイクル処理	適正遵守
フロン排出抑制法	- 第一種特定製品の管理義務 - 簡易点検の実施 - 定期点検の実施	業務用エアコンの簡易点検	適正遵守

(2) 外部からの違反、訴訟等の有無

当社は、関係当局からの違反の指摘、指導及び利害関係者からの訴訟等は、これまで過去3年間ありませんでした。

9 代表者による全体評価と見直しの結果

代表者は、今年度におけるエコアクション21運用全体について以下の通り、評価と見直しを行いました。

項 目	内 容		
1. 見直し実施日	令和6年 9月8 日		
2. 出席者	代表取締役、環境管理責任者		
3. 報告した情報	①環境目標達成状況 ②環境活動計画の実施及び運用結果 ③環境関連法規等の遵守状況 ④外部からの苦情、要望等		
4. 代表者の評価	自然環境の急激な変化により、日常を普通に送ることが難しくなっています。 このような状況で二酸化炭素排出量削減目標を達成できたことは社員ひとりひとりが目標をしっかりと考え行動した結果です。 水資源使用量は元々の実績設定が低く、水を散布して環境温度を下げるという事を想定しなかった為に目標値に届かなかったと考えます。 自然の力、水の散布によって温度を下げる事はエコアクションの理念に沿う行動と考え、酷暑が予想される次年度もこの行動を続けるために削減目標の適正化、見直しを考えています。		
5. 見直しの結果	見直し項目	変更の有無	変更の内容
	①環境方針	有 ・ ☐ 無	
	②環境目標	☒ ・ 無	次年度水使用量の削減目標を訂正
	③環境活動計画	有 ・ ☐ 無	
	④実施体制	有 ・ ☐ 無	
	⑤環境経営システム	有 ・ ☐ 無	